



庄巻のラフマニノフを聴かせた清水和音

1989年に第1回が開催された日本演奏連盟主催の「クラシックフェスティバル」。プロ・アマ問わず聴いて楽しい練られたプログラムミングと名演の数々で20年。今年（ピアノ）が誕生して300年というところで、数多あるピアノ曲の中から厳選された作品が2部構成で並んだ（第一部・ソロ、第二部・連弾、2台ピアノ、5台ピアノ）。出演者はチェンバロの曾根麻矢子に始まって、以下出演順で青柳晋、若林顕、田部京子、迫昭嘉、伊藤恵、清水和音、ピアノデュオ・ドウオール（藤井隆史&白水若枝）、菊地裕介、松本愛という、若手からヴェテランまで日本を代表する奏者たち。絢爛豪華ならぬ鍵盤豪華な一夜となった（5月8日・東京

“鍵”爛豪華な響きに酔う！ ピアニストたちが集い祝ったピアノ誕生300年

日本演奏連盟第21
回クラシックフェス
ティバル<ピアノ誕
生300年記念>



ピアニストの組み合わせには様々な発見が（写真は伊藤恵と青柳晋の連弾）

文化会館大ホール。
そもそもピアノの前身であるチェンバロ。時代はさかのぼり、バロックの典雅な響きで幕開け。曾根麻矢子のスカルラッティから、青柳のモーツァルト（幻想曲）、若林のベートーヴェン（悲愴ソナタ）へと古典派へ。そして田部のシューベルド（即興曲第3番）、迫のショパン（バラード第1番、伊藤のシューマン（アラベスク）のロマン派。第一部のトリ



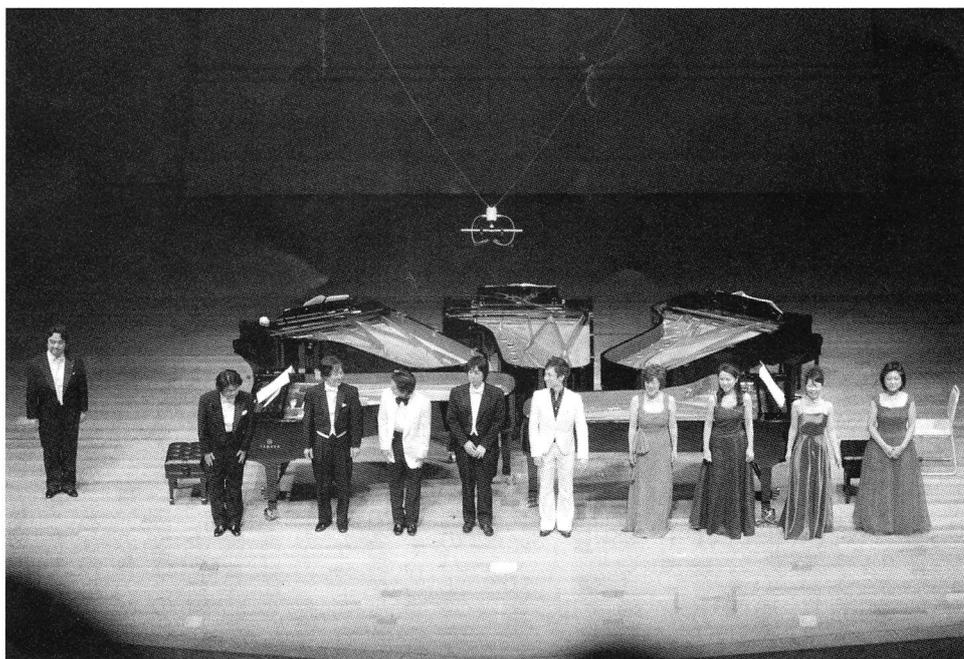
大団円は5台ピアノによる《ラブソディ・イン・ブルー》！（左から清水和音、伊藤恵、若林顕、田部京子、弾き振りをした迫昭嘉）

第2部、まずは連弾でブラームス（大学祝典序曲）。これはドウオールの藤井&白水夫妻が得意にしている曲で、近年益々デュオが深まっ

ている両氏の名演を堪能。続いて伊藤&青柳によるドビュッシー／ラヴェル編（牧神の午後への前奏曲）、若林&菊地によるラヴェル（ラ・ヴァルス）。第2部後半は5台ピアノでステージにすらりと並んだピカピカの5台、絶景かな絶景かな、である。リスト（5台ピアノによる《ラ・カンパネラ》）とビゼー（《カルメン》

による5台ピアノのためのファンタジー）は菊地が編曲したもので、青柳・菊地・白水・藤井・松本が色彩感溢れる華麗な世界を魅せる。最後は森山智宏の編曲によるガーシユウイン（ラブソディ・イン・ブルー）。迫・伊藤・清水・田部・若林による、揺るぎない堂々の演奏には体が熱くなった。

さて当コンサートを支えた5台のピアノ。我が国が誇るYAMAHAのCFⅢSである（調律の皆さん、ご苦労様でした！）。名器による名演を聴きながら、1709年にピアノを製作したバルトロメオ・クリストフォリに思いを馳せ、「どーよー」と日本人として誇らしくもあった。ピアノ万歳！ 取材・文 上田弘子



若手からベテランまで豪華な出演者陣が揃って舞台上（1人置いて左から若林顕、迫昭嘉、青柳晋、菊地裕介、藤井隆史、伊藤恵、田部京子、白水芳枝、松本愛）